

2 市内の男性保育士

～元気のもと、子どもたちの笑顔と成長～

平成10年の男女雇用機会均等法と児童福祉法改正の流れを受けて、保母から保育士に名称が変更になりました。また平成11年に男女共同参画基本法が制定されたことで、現在県で2,211人、市でも3人の男性保育士が活躍しています。今回は保育所で日本の未来を担う子どもたちを育てる、子どもが大好きな男性保育士を紹介します。

【男性保育士 INTERVIEW】 ①保育士になったきっかけ ②よかったこと・うれしかったこと ③困ったこと ④一言

市立恵保育所 ● 長尾弘行先生

子どもの成長が喜びです

①高校受験のときに親から「小さい子どもが好きなので、保育士になったらどう？」と薦められたこと。ずっと夢は変わらず保育士の免許を取得した。②子どもが日々成長していることを感じられること。③「なぜ男性がここに」「男性が小さい子どもの面倒をみられるのか」と見られたこと。④女性保育士と男性保育士の視点は違うので、やはりどちらも必要と感じる。

〈中村所長より長尾先生について〉

▶男性保育士がいることで、日頃からお父さんたちも話しやすそうで「いっしょに子育てしていきましょう！」という雰囲気を感じられます。▶また、男性的なダイナミックな保育活動や遊びのリーダーとしてもたいせつな存在です。



私立花見光保育園 ● 富森祐輔先生

やりがいのある仕事です

①保育の学校に行ってみたら、すごくおもしろかったこと。違う職種の仕事に就いたが、やはり保育の仕事がやりたくて保育士に戻った。



②同じことをしても

子どもによって違う反応があり楽しい。また、お父さんたちから「男性の先生がいるから送り迎えに来やすい」と言われてうれしかった。③「男性が保育のことを分かるわけがない」と言われたこと。今はそういうことはないが、思っていたより壁が高かった。④職業として保育士をやりたい人はたくさんいるが、収入面で続けられない人が自分の周りにもいる。

〈大和園長より富森先生について〉

▶保育士歴15年のベテランで、保育のプロとしての道を極めていこうとしています。▶口数は少ないですが、保育園の中では父親代わりを担うたいせつな存在です。

私立久保保育園 ● 橋本智博先生

あこがれの保育士になりました

①子どもが好きで母親も保育士だったので、

高校生の頃から保育士になりたかった。②子どもが、できなかったことができるようになったところを見ることができたり、保護者に「先生に面倒見てもらおうようになって、子どもが家庭でも変わってきた」と言われるのもうれしい。③保育士になった当初「大丈夫？」と不安に思われたこと。④このまま保育士を続けてがんばりたい。



〈井手園長より橋本先生について〉▶保育園では父親代わりとして、子どもたちと遊ぶのはもちろん、クッキングしたり、掃除したり、ときには威厳を持って子どもと向き合ったりと奮闘中です。▶なんといっても「力仕事はおまかせを」の彼なので、頼りにされています。